

あいち病虫害情報 最新情報

令和 8 年 9 月 1 6 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

向こう 1 か月の気温は高い見込み

名古屋地方気象台 9 月 10 日発表の 1 か月予報によると、暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高い見込みです。また、降水量及び日照時間はほぼ平年並の見込みです。

水稻の病虫害

トビイロウンカは、8 月下旬までの巡回調査において確認されておらず、予察灯においても誘殺されていません。しかし、近隣の三重県では、8 月中旬に予察灯での誘殺が確認されており、本県にも飛来している可能性があります。収穫までの期間が長いほ場では発生状況に注意するとともに、収穫が遅れないようにしましょう。

弥富市に設置している予察灯において、ニカメイガの誘殺が多い状況が続いています。本種は収穫後の刈り株や畦畔雑草で越冬します。収穫後は、刈り株の早期すき込みや畦畔の除草を実施しましょう。

ダイズのチョウ目害虫の発生に注意

ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおける直近 1 か月の総誘殺数は、オオタバコガ及びシロイチモジヨトウは概ね平年並です。一方、ハスモンヨトウについては、安城市と西尾市において 8 月下旬から多い状況が続いているため注意が必要です。

また、一部のほ場ではシロイチモジヨトウの発生及び食害が確認されているため、ほ場ごとの発生状況に注意しましょう。

向こう 1 か月の気温は高いと見込まれており、今後、これらのチョウ目害虫の増殖に好適な条件が続くと予想されますので、今後の発生状況に注意しましょう。

ダイズの吸実性カメムシ類

県内各地に設置した予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数は多い～やや多い状況です。向こう 1 か月の気温は高いと見込まれおり、本種の活動に好適な条件となる可能性があります。また、水稻収穫済みの水田から近隣のダイズほ場にミナミアオカメムシ等が移動する可能性があるため、子実肥大初期（開花 30～40 日後）に防除を行いましょう。詳細は 9 月 2 日発表の「令和 8 年度病虫害発生予察注意報第 7 号」を参考にしてください。

引き続き果樹カメムシ類の発生に注意！！

8 月 18 日に「令和 8 年度病虫害発生予察注意報第 6 号」を発表しましたが、9 月上旬の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数は、ツヤアオカメムシで多く、チャバネアオカメムシおよびクサギカメムシでやや多い状況です。また、チャバネアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数は、小牧市および豊田市で多くなっています。カキやカンキツの一部ほ場では被害が確認されており、今後も注意が必要です。

向こう 1 か月の気温は高いと見込まれていることから、果樹カメムシ類が活発に活動し、果樹園への飛来が増加するおそれがあります。また、台風などによる強風の影響で、成虫が突発的に多数飛来する可能性もあります。ほ場での発生状況をこまめに確認し、果樹カ

メムシ類の飛来や加害を認めた場合は、速やかに防除を実施してください。

モモ、ウメのクビアカツヤカミキリの被害に注意

現在、モモおよびウメでは、クビアカツヤカミキリ幼虫による幹の食害がみられる時期となっています。5月18日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号」を参考に、樹幹からフラス（木くずと虫ふんの混合物）が発生していないか確認してください。フラスを発見した場合は、食入孔内に詰まったフラスを針金などで除去し、食入している幼虫を掘り取る、あるいは刺殺するなどの防除を行ってください。

クビアカツヤカミキリ未発生地域で被害などを確認した場合は、農業総合試験場病害虫防除室もしくは最寄りの農林水産事務所農業改良普及課に連絡をお願いします。

果樹の病害

秋期の降雨により、ブドウべと病やモモせん孔細菌病などの発生が急激に増加するおそれがあります。今後の気象条件に注意しながら、秋期防除を徹底してください。

ブドウべと病では、早期落葉を防ぐとともに、翌作の越冬伝染源を減らすため、収穫後に IC ボルドー48Q などによる秋期防除を実施してください。また、罹病葉は翌作の第一次伝染源となるため、落葉は園外へ持ち出し、適切に処分してください。

モモせん孔細菌病では、病原菌が枝病斑や落葉痕部の組織内で越冬し、翌作の伝染源となります。このため、枝病斑の除去に加え、IC ボルドー412 などによる収穫後の秋期防除を実施してください。

なお、農薬を使用する際はラベルをよく確認し、使用基準を遵守するとともに、薬害の発生に十分注意してください。

野菜類、花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガに注意

9月上旬巡回調査におけるキャベツほ場での幼虫の寄生株率は、ハスモンヨトウで平年並、シロイチモジヨトウ及びオオタバコガではやや多い状況です。

フェロモントラップによる直近1か月の総誘殺数は、ハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウでは概ね平年並、オオタバコガはやや多い状況です。

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガは、いずれも近年、発生が多い傾向です。また、向こう1か月の予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と見込まれており、これら害虫の増殖に好適な条件が予想されることから、今後の発生状況に注意してください。ほ場をよく観察して早期発見に努め、防除しましょう。

ハイマダラノメイガの9月上旬の巡回調査におけるキャベツほ場での寄生株率は平年並の状況です。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

コナガの9月上旬の巡回調査におけるキャベツほ場での寄生株率は平年並です。ほ場をよく観察して、早期発見に努め、防除しましょう。

ブロッコリー、キャベツの黒すす病

近年発生が増加しています。本病は孢子により空気伝染し、病斑は下位葉から上位葉や花蕾へ広がり、一度発生が広がると防除が困難になります。育苗中は高温多湿を避け、早期発見に努めるとともに発病株は速やかに処分しましょう。また、一部系統の殺菌剤の感受性が低い菌株を確認していることから、薬剤選択は指導機関に相談しましょう。

アブラナ科野菜の細菌性病害

黒腐病、軟腐病等の細菌病は、降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は病原細菌の侵入口となるので、強風雨による傷や虫の食害痕は細菌病を助長します。台風等の悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布し、排水不良ほ場では排水対策をしましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室 TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820
